

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	介護員室の壁や職員会の資料に掲げて、実践できる様に意識はしている。実践の確認はできていない。	前回の外部評価受審後、グループホーム独自の理念を経営者、管理者、全職員で作成した。のぞみの里の全職員一人ひとり理解し、共有できるよう職員会の資料に掲載し、日々の実践の中で具現化できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	元気サロンや行事等で交流している。散歩や外気浴の際に挨拶や会話で交流できている。	中学生とのほう葉巻き作り、町内の納涼祭、文化祭、元気はつらつウォーク、認知症カフェ等々、地域の人達と挨拶を交わしたりして、地域の人達とふれあう機会が多い。又「こどもを守る安心の家」にも登録されている。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症カフェ、元気づくり支援事業などで、地域の方も参加してもらっている。カフェの講師として地域の方を招いたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	会議では主任以上のみの参加となっている。職員はノートをみて周知している。	隔月に定期的開催し、事故事例の検討等、事業所の現状報告や運営計画等を、委員と共に話し合っている。出された意見等は、職員会で検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	所長・管理者を中心に、近隣市町村との関係づくりをし協力対応している。	定期的に、行政、病院、事業所との連絡会を開催するなど、様々な機会を通じて、のぞみの里の現状を受け止め、お互いに協力し連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠・身体拘束はしていない。見守り、訪室をこまめにしたりしている。	事業所の固有のリスク等を把握し、職員に対して気づきを持つことの出来る研修を実施している。身体的拘束等の適正化は運営推進会議にて取り組み、職員も共有している。リスクマネジメント会議を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修に参加し、利用者に対する言動に気を付けている。声掛けが不適切な職員もいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修の機会があったが、話し合い支援はできていない。 グループホーム利用者で1名の方が、成年後見人を立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が事前面接し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情等言ってもらい、会議等で周知している。 家族側の要望や意見はあまり上がってこない。	家族等との面会時及びアンケート等を通じて、利用者、家族等の意見や思いを聞く機会を作っている。出された意見等は職員会に報告し、それぞれ検討を行い、可能なことは運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会には所長管理者も出席している。職員は管理者に意見をよく言っている。 必要に応じてアンケート等で意見を聞いてくれている。	利用者の一番近くにいる職員からは、様々な気づきの意見やアイデアが出される。”第4回元気はつらつウオーク”も職員からの提案である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回、目標シートを提出し、各自が向上心を持って働けるような環境が出来ている。 やりがいがある職場だが、休憩するスペースが少ないと感じている。 子育て中の職員が、働きやすい時間帯の勤務等で配慮してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修案内や機会は与えられ、年に1回以上は研修に参加している。 社会人一年生の指導は見直しが必要と思われる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	宅老所連絡会の会議などに参加し意見交換した。 他事業所との交流はない。あっても良い。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	生活歴等を読み、本人の不安なことなどに耳を傾け、安心できるよう努めている。利用者の小さな声を見逃さず、声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	中々面会等で直接話ができないが、電話等で関係づくりに努めている。家族からわからないことを聞いたりして、本人の現状と照らし合わせながら努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族からの情報をもとに、本人の日々の様子から見極めて対応できている。本人が必要とする支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	残存機能を見極め、できることをお願いするなど役割をもてる声掛けをしている。言葉がけに気を付け思いをくみ取るよう、あわてさせずゆっくり対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ケアプラン内で面会や受診介助の依頼をするなど、本人との関わりをお願いしている。3か月に1度お便りを届け近況を伝えている。日々の状況を伝えたり相談して、協力体制は取れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍や身体状況の低下で、馴染みの方との交流が少なくなった。	コロナ感染拡大防止のため交流が少なくなっている。利用者を支えたり、支えられたりの関係作りの1つとして、状況を鑑み元気サロン(認知症カフェ)の再開により日常に戻っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	その時の状況によって、個別・集団の支援をしている。利用者同士も支え合う関係になっている。職員が間に入り、コミュニケーションを図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	死亡時に会いに行ってはいるが、退所後のフォロー支援には至っていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランを作成する時、可能な限り、本人の思いを聞き取っている。 やりたいことがあれば、生活の中で実現できるように支援している。 認知でつかみきれない所もあるが、本人や家族、職員と確認しケアに努めている。	利用者本人に思いを聴くように努めている。 コミュニケーションの取りにくい利用者には、一日の生活の中でどんな時にどのような表情をするかを記録し、職員会にて職員の意見をまとめ共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴など全部把握していないこともあると思う。 本人から話してくれることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の生活の流れを理解している。前日までの状況を、記録を確認し業務に入っている。 職員皆が理解できているかは難しい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当を中心にモニタリングをしてもらい、職員会等で皆の意見をもらってプラン作成ができています。 家族からのこうあって欲しい等の意見が少ない。	「笑顔でいてもらいたい」家族等の思いを反映している。不安のある利用者には、その人の気持ちを聴くなど、現状に即した計画の見直しを行いながら、その人らしい生活が出来る計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	小さな気づき、言葉も記録していくように努力している。記録等を確認しながら計画の見直しに活かしている。 情報の共有はしているが、個々の職員で理解の差があることが課題。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	他のサービス利用には取り組んでいない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	元氣サロンやサークル等に参加し、いつもと違う雰囲気の中、地域の方と交流し楽しんでいる。 本人の力が発揮できるよう地域資源を活用しつつ支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者の状態に合わせて、協力医療機関をかかりつけ医にして受診している。 受診内容も家族に伝える対応をしている。	希望する医療機関となっている。受診は家族等の対応であるが、時により職員の同行もある。主治医には、受診利用者の様子を文章で伝え、主治医からは口頭で結果を知らせられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	NS出勤時に、相談し指示をあおいでいる。 併設事業所NSに援助依頼することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要に応じて相談したり、運協で病院関係者と関係づくりをしている。 管理者を中心に病院と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	方針はあるが、家族との話し合いはあまりできていないと思う。 看取りの環境が整っていない。	状況に応じて重度化に伴う話し合いは行っている。事業所としては、看取りを行う方針である。今年度の目標達成計画に、チームで取り組む支援の一つとして職員研修を掲げている。	事業所はどこまで支援できるか話し合い、利用者や家族の意向をくみ取り、状況の変化のたびに家族や医療関係者等との連携を図り、本人、家族の納得が得られる話し合いをチームで繰り返し、支援されることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時マニュアルはあるが、定期的に訓練できていないと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を計画し行っている。(地域も含めて) 夜間の訓練、持ち出す物の共有はできていない。	毎月防災点検、隔月に避難訓練を実施している。防災の日には町と一緒に防災訓練を行い、地域住民はのぞみの里へ避難するようになっている。防災教育と防災訓練計画は整備されている。	更に、災害を想定した実践的な訓練を行い、訓練後の課題整理を明確にし、次に活かす事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けのタイミングやトーンなど、個々に合わせた対応をしている。できない職員もいる。	"...その人らしく 尊厳のある..."を理念に掲げ、日々の生活の中で、職員同士で大声での伝達はしない等々の取り組みを図っている。今年度の研修計画は、接遇など"尊厳ある生活"をテーマとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り希望を聞いたり、選択できるものは自己決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	それぞれの利用者のペースにそって行っているが、そえない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	居室から出て来た時に身だしなみをみたり、担当の利用者の衣類を、季節に合わせて準備している。 食後口まわりをきれいにするように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	限られた人をお願いする場面が多くなってはいるが、できることはやってもらい、感謝の言葉をしっかり伝えている。	ご近所や家族から食材のお裾分けを頂いている。食器拭き、おぼんのかたづけなど利用者が自主的にやっている。職員は、一緒に食卓を囲み、楽しい時間となっている。誕生日や四季折々の食事メニューも工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1人1人に合った食事形態にして、食事量はチェック表で確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後確実にできていない。できる方できない方がいる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、個人個人のパターンや習慣を理解し支援しているが、オムツ使用が多くなっている。	一人ひとりの排泄チェック表に記入し、職員はパターンを共有し、その人の出来る事や習慣を活かし、羞恥心や不安への配慮に留意して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	繊維質の食物を提供する工夫をしたり、歩ける方は散歩に行ったり個々に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	週2回実施できるよう、タイミングや声掛けを工夫している。気分が向かない時は他者と替えたり、血圧不調な時は全身清拭を実施している。	入浴時は、利用者と職員の見守りで普通の会話をしながら行っている。体調に応じてバスリフトを活用し、ゆっくり入浴している。時には、入浴剤を使い、入浴時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その時々状況に応じて行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報や受診内容をしっかり把握し、薬介助時確認をしっかり行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	楽しみや趣味を考えて、張り合いや喜びにつなげている。 何をするのが好きなのかを把握し、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出が困難だった。 最近ようやく近くに散歩したりしているが、場所が限られてしまっている。	”行きたいとはどこ？””お墓参りに行きたい”お墓参りに行き、近所でお茶を飲み帰ってきた。行き付けの美容院への送迎等々、コロナ禍以前は支援していた。コロナ感染拡大防止のため困難ではあるが、最近は、日向ぼっこ、近所の散歩など支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族より預かり金としてお金を預かっているが、利用者自身で使用することはない。ほぼ代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ケアプランに導入したり、希望がある時は自由にやりとりできるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの壁飾りは担当を決め、季節に合わせた壁画を、利用者と一緒に作り飾っている。	季節の草花を利用者に活けて頂くなど、季節感を醸し出すように工夫している。また、運営推進会議のメンバーにも共有空間の感想を聞くなど、居心地よく過ごせられるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室や畳コーナーの空間を作ったりして、それぞれの気分にあったスペースを利用できる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者に合わせたベッド配置をしたり、飾りつけをしたりしている。	居室の掃除は、担当者が利用者と一緒にやっている。地元の力士御嶽海の写真を壁に貼る利用者、仲間と共に作った作品を貼る利用者、家族と一緒に、その人らしい部屋づくりの工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	調理関係の「できること」は、調理場では安全上難しいこともあり、ホールでやってもらったり工夫している。		